

# 非正規雇用職員の雇用更新期限撤廃

## ならびに正規職員化を求める署名

### ご協力をお願いいたします

いま、全国的に非正規雇用が、社会問題としてクローズアップされています。この非正規雇用の問題は大学においても例外ではありません。

北海道大学には千名を超える契約職員・短時間勤務職員が、いわゆる非正規雇用として働いています。非正規雇用は本来、臨時的・一時的な仕事について、正規職員の補助的な業務に就くことを目的としています。そのため、常勤化防止を名目に、原則として1年間の雇用契約の更新が2回まで（通算3年間）と制限されています。

しかし、正規職員が度重なる定員削減を受け職場から減少していった結果、本来ならば正規職員が担うべき基幹的・恒常的な業務にも非正規職員が配置され、その任に就いているのが現状です。今日の非正規職員の増大は、永年の正規職員削減の結果であると言っても過言ではありません。

こうした状況の中、仕事に習熟した非正規職員が、雇用更新の制限を理由に離職を強いられています。恒常的、基幹的な業務に就いているにも関わらず、短期間で職員が入れ替わっていくことに、ともに働く正規職員や教員からも疑問の声があがっています。仕事に習熟し、職場からも信頼されている非正規職員を、引き続き仕事があるのにコロコロと入れ替えていくことに、一体なんのメリットがあるのでしょうか？

私たち北海道大学教職員組合は、こうした不合理な非正規職員の雇用更新期限の撤廃を要求すると同時に、短時間勤務職員を含む全非正規職員を対象とした、正規職員への登用制度の整備を強く求めます。非正規から正規への登用機会の整備は、2008年に改正されたパート労働法でも、はっきりと明記されている事項です。

非正規職員が安心して、誇りと希望を持って働ける職場とするために。北大で働く全ての皆さんに、これらの要求に賛同し、運動へ加わっていただきますよう、お願いするところです。署名にご協力をお願いいたします。

2008年12月24日